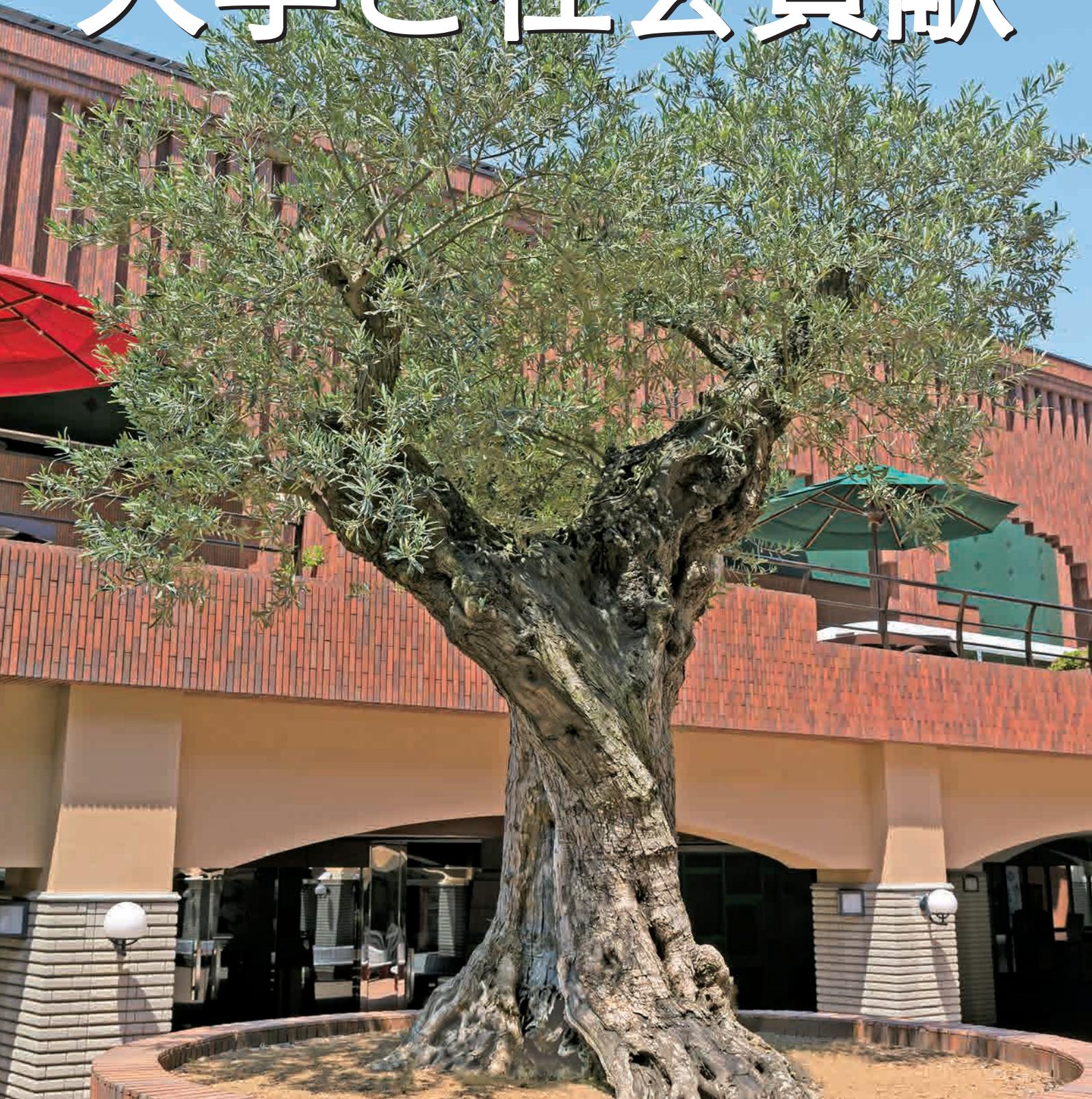


2019 (平成31) 年度版

# 大学と社会貢献



東北福祉大学  
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

# 市民と大学をつなぐ

東北最大都市の玄関口、仙台駅から徒歩3分。学習施設のみならず「TFUギャラリー Mini Mori」を中心に文化交流拠点としても利用されてきた仙台駅東口キャンパスが、5年目を迎えた2019年1月に大きく変化を遂げました。これからも市民の方々に開放されたキャンパスとして、活用していきます。



芹沢銈介美術工芸館



学食「TFU Cafeteria Olive」



「TFU Cafeteria Olive」内観

## 芹沢銈介美術工芸館

「地域に根ざした大学美術館」として1989年に国見キャンパス内に設置されましたが、31年目を迎え仙台駅東口キャンパス2階に新たな展示空間を設置。2019年1月25日からオープン記念展「文様万華」を開催しました。型絵染の技法を独自に発展させた、20世紀の日本を代表する染色工芸家で人間国宝の芹沢銈介。美術品のコレクターでもあり、その作品やコレクションの数々が、利便性の良い立地で今後多くの市民の方々に触れられるようになりました。



## 学食「TFU Cafeteria Olive」

芹沢銈介美術工芸館の設置とともに、キャンパス1階にオープンしました。見晴らしの良い落ち着いた空間で、一般の方もランチやティータイムを楽しめます。「就労継続支援A型事業所」として、障害者就労支援を行う地元NPO法人に運営を委託しています。

## 仙台元気塾のリニューアル、入学相談ブースの設置

予防福祉健康増進推進室が運営する「仙台元気塾」もリニューアルオープンしました。クリニカルアートや仕事帰りにも立ち寄れるフィットネス、ヨガなど各種教室を開催し、地域の健康づくりのために大学の研究成果を還元しています。また、入学希望の高校生や社会人等を対象に、学部学科、通信教育、東北福祉看護専門学校の入学相談ブースも設けました。



仙台元気塾でのクリニカルアート体験



TFU ギャラリー Mini Mori

## TFU ギャラリー Mini Mori

仙台市、河北新報社と締結した協定をもとに2016年に設置。学生団体「ミニモリサポーターズ」(下記参照)がイベント運営の補助などを行い、地域と社会に触れて学ぶ場所としても活用しています。2018年は「マーベル展」などを開催し好評を博しました。

## 311「伝える / 備える」次世代塾

前述の協定に基づき、2017年4月から東日本大震災の伝承講座として開設。防災啓発の担い手になる人材を被災地から地域、全国へ送り出すことを目的に、10代後半から20代前半の学生・社会人を対象に年間15回の講座を行っています。

## 公開講座と市民の関心

一般の方を主な対象とする公開講座は、生涯学習支援室の運営のもと、仙台駅東口キャンパスを中心に行っています。2018年度は「仙台藩と戊辰戦争150年」全8回に約1600人と、主催48講座を約3700の方が受講しました。2017年11月から開催した伊達政宗生誕450年記念講座は、全12回で2011人が受講。歴史を学ぶことへの、市民の関心の高さがうかがえました。

## 囲碁の杜

2017年1月、地下1階に開設された囲碁の交流サロン。定員46人。囲碁には総合的思考力や社会性の涵養(かんよう)、全人格的な教育効果があるといわれています。対局を通じ礼儀や洞察力を学ぶ場として、学生の授業科目にも取り入れています。



公開講座「仙台藩と戊辰戦争」



囲碁の杜

## 学生注目！

### 東北福祉大学ミニモリサポーターズ

地域への貢献、世代間交流および実践活動を通じた教育・研究を目的に開設されたTFUギャラリー Mini Moriで、展示会・講習会・講演会・研修会などさまざまな運営サポートを行います。大学と連携している自治体や企業と接することは、所属学生に新たな価値観を芽吹かせています。自主企画も行っており、2018年11月に開催した、瓶と花とオイルを利用して植物標本をつくるハンドメイドイベント「ハーバリウムの小さな森」では、想定以上の来場者にお越しいただき、学生たちの励みとなりました。



# 自然と先人、地域に学ぶ

大学と地域社会の新たな関係の構築を目的に、本学は「地域共創」を理念の1つとして掲げています。学生主体の地域に根ざした活動や、「海・山・里」を活かした自然での学び、また地産の農水産物の活用や養殖研究、商品開発など地域産業との協働も積極的に行っています。

## 網地島プロジェクト

宮城県石巻市の沖合、牡鹿半島先端に位置する網地島は、「東北のハワイ」と称される風光明媚な地。日露史上初の交易地としても知られます。



2018年4月、現地NPO法人と地域共創推進事業に関する協定を締結。「プロジェクト実践活動」を履修する学生が、島内立脇地区にチュニジア産オリーブの記念植樹を行い、オリーブ農園が完成しました。また、10月には網地島産ワカメ養殖事業を開始し、牡鹿半島小湊浜にてワカメの種付け作業後、養殖海域に設置。2019年1月の仙台駅東口キャンパスグランドオープン物産展で、網地島産塩蔵ワカメの販売を行いました。

## 日本初のナマコ養殖へのチャレンジ

漁業者の収入向上と漁港の有効利用を目的に、日本初のナマコ養殖に向けた共同研究を弘前大学と進めています。環境汚染防止や海岸利用の観点から困難とされる養殖ですが、特殊ブロックでの囲い込みやかごを利用し、石巻市と松島町でナマコの生育状況の確認・調査を行いながら、その可能性を探っています。

研究を行う総合マネジメント学部・澁谷長生教授のゼミ生による「東北福祉大ナマコ研究会」は2018年、第4回石巻市創業ビジネスグランプリ学生部門に「石巻市内漁港での日本初ナマコ養殖による水産業活性化を目指す」をテーマに応募し、最優秀賞を受賞しました。

また、復興庁「水産加工業等再生モデル事業」採択の、震災被災地の雇用創出に向けた「三陸ナマコの多用途商品開発推進事業」では、学生による新しいナマコメニューの考案や商品企画などが行われています。

## 栗原市での世界的防災・減災プロジェクトと地域発展・人材育成事業

2018年3月、宮城県栗原市、東北大学と締結した三者協定によるプロジェクト。2008年の岩手・宮城内陸地震で大規模な地すべりが起きた栗駒山麓は、自然災害との共生を考えるジオパークとなっています。本学は近隣に栗原研修所を設け、防災士資格を持つ学生や高大連携に伴う高校生を対象に、「地質から学ぶ地すべり・土石流災害」をテーマとした防災・減災教育、荒砥沢崩壊地のドローン撮影による3D画像やVR映像を用いた講義などを行っています。

研修所では宮城県がブランド化を進める「伊達いわな」を養殖。仙台駅東口キャンパス学食での提供も行いました。また、栗駒文字地区にある日本最古の染色方法「正藍染(しょうあいぞめ)」と地区の魅力を紹介する施設や地区コミュニティ推進協議会と連携し、工程作業の協力や体験学習などで地区の活性化を展開していく予定です。



栗原市での防災教育



伊達いわなの養殖



正藍染

## 「米 100% 活用」プロジェクト

日本の農業振興への貢献を目指し、本学感性福祉研究所が中心となる「米及び油糧米が創る新産業に係る研究開発プラットフォーム」が2018年11月に設立されました。設立趣旨に賛同した全国30の企業・団体によって組織されたプラットフォームの目的は①次世代に求められる高アミロース米生産に係る研究開発②米の高度利用・加工に係る研究開発③米油の新たな有効利用研究④米油生産に係るシステム技術研究開発で、油量米等の利用率100%を見据え、製造過程での副産物の研究と食への活用を目指します。

また、卒業生が宮城県大崎市で営む寒梅酒造とともに、七ヶ宿町の棚田で学生、教職員がつくった玄米「金のいぶぎ」を利用した、前例のない純米酒を製造。通常の約3倍ある巨大胚芽の栄養価を活かすため、1割程度の削り(精米歩合90%)で仕上げました。脳の血流改善、腎・肝機能活性化などの作用があるGABA(γ-アミノ酪酸)が含まれ、今後はその含量を増やすことにチャレンジしていきます。



純米酒「金のいぶぎ」

## 七ヶ宿町などでの地域共創教育

2013年に協定を締結した宮城県七ヶ宿町には、地域資源を活かす人材育成拠点「七ヶ宿千年塾」を開設しています。地域共創教育として、米づくりや山菜収集など自然とのつながりを体感するプログラムを学生たちが履修。地域の方々と協働し、過疎・高齢対策を考える機会ともなっています。

学生による米づくりは、仙台市郊外にある朴木山(ほおのきやま)キャンパスでも行われています。日本の原風景をとどめた約214,777平方メートルの「自然体験総合施設」である同キャンパスは、希少動植物の生態観察や、田畑、炭焼き小屋を利用した自然体験学習、トレッキングコースを用いた体力づくりなど、学生たちの気づきや目覚めを呼び起こす活用がなされています。

## 利府町との連携協力

学生の柔軟なアイデアを生かした効果的な事業推進を図ること、大学の教育資源を提供することにより相互の事業効果を高めることを目的に2018年7月、宮城県利府町と「連携協力に関する協定」を締結しました。協定後は商業施設での「まちかど保健室」にて「予防福祉健康相談コーナー」を設置し、医療経営管理学科・保健看護学科学生たちが血圧測定などを行いました。また、子どもの居場所づくり事業支援にも学生・教職員が参加しています。



「まちかど保健室」での健康相談

### 2018年に締結した自治体・団体との主な協定

#### 栗原市 東北大学 包括的連携協定

人的・物的資源の活用により連携協力し、地域の発展と人材の育成を図ることや、学術貢献を目的に締結。本学は滞在型防災教育や、学生による観光資源発掘や地域活性化策の提言等を行います。

#### 山形市 地域福祉に関する協定

地域包括ケアの構築に向けた支援や災害時の福祉支援などで相互に連携を図り、山形市の地域共生社会の実現に資することを目的としています。

#### 仙台市 地域消防力の向上等に関する協定

人的・物的資源の活用により相互に連携協力し、地域における消防力向上と人材の育成等を図ることを目的に締結。消防業務で大学との協定締結は、仙台市では初めてのこととなりました。 ※7ページ参照

#### 利府町 連携協力に関する協定

具体的な連携・協力事項として①福祉・防災・教育②その他利府町のまちづくり全般③本学の教育・学術・研究活動などが挙げられています。

#### 仙台水産 東北振興・人材育成に関する包括的連携協定

東北の水産業の成長産業化、東北の水産業の担い手づくり、東北の復興支援を目的に地域創生、人材育成に連携協力して取り組みます。



七ヶ宿町での稲刈り

## 日本初のキャンパスライオンズ 「東北福祉大学ライオンズクラブ」発足

2018年5月、教職員50人からなる国内初のキャンパスライオンズクラブ「東北福祉大学ライオンズクラブ」が正式発足しました。210カ国、45,000のクラブがあり、そのうちキャンパスクラブは439(当時)。

ライオンズクラブは世界的奉仕組織で、本学ではそのユース版である学生中心の団体「東北福祉大学レオクラブ」が2016年6月に宮城県内の大学では初めて発足し、すでにさまざまな奉仕活動を展開しています。レオクラブとともに初年度は、認知症サポーター養成講座の開催、留学生の受け入れ、糖尿病対策支援講演協力などを行いました。

## 学生の高い東北（地元）就職率と インターンシップへの注力

本学学生の進路は、東北での就職内定率が72.1% (2018年5月1日現在) と高い「地元」率となっています。2018年度から新たに、4年間を通じた学びと



学生による「企業・業界研究型インターンシップ報告会」

なる企業・業界研究型インターンシップ科目を開設。その受け皿となる地元周辺企業・事業所との「TFUパートナーズ」制度を設け、事業所と学生の相互理解、就職支援に結びつけています。

## 地域共創推進室

国見キャンパス、ステーションキャンパスを中心とした半径1キロ圏内を重点的な地域共創の場とし、大学と地域がともに発展できる環境構築を目的に、その窓口として2010年4月に開設。あわせて国見地区連合町内会と相互支援協定を締結、11年には青葉区も加わり地域共創推進に関する協定を結びました。学生団体の「まごのてくらぶ」とともに町内会の運動会、夏祭りの手伝い、子供や高齢者の見守り活動、公園清掃、整備など地域に根ざした幅広い活動を行っています。

## 学生注目！

### まごのてくらぶ

まごのてくらぶは地域共創推進室と連携し、自立支援を前提とした活動をしており、日常生活の中で「一人では手が届かない」「ちょっとしたお手伝いがほしい」という時に痒いところを掻く『孫の手』役となって、お手伝い(支援)を行います。また、大崎八幡宮での例大祭や松焚祭といった伝統文化継承活動、東日本大震災における被災地支援活動や風化防止活動、また近年は地域見守り支援活動等にも注力しています。



### 東北福祉大学レオクラブ

県内のライオンズクラブや大学の支援のもと、活動を行っている団体です。学内外での認知症サポーター養成講座や献血活動の支援等のほか、ライオンズクラブから依頼を受けて行う活動もあります。また、自主企画から実行に移すボランティア活動ができるのも魅力の1つです。一人ひとりが地域・国際社会の諸問題に関する活動を意識し、必要となる指導力を獲得することを目指しています。



### 地域安心安全ボランティア Team ZERO

「Team ZERO」は地域の犯罪・交通事故ゼロを目指し、ボランティア団体等と連携し地域連携型防犯活動や交通安全運動、ナイトパトロールなどに力を入れています。防犯、交通安全に関する子供や高齢者向けの出張講座の開催や、児童館等で防犯紙芝居の読み聞かせやイベント等に参加しています。それらの取り組みに対し2018年9月、仙台市社会福祉協議会長から感謝状を頂きました。



# 超高齢化を受け止める

日本の認知症患者は約500万人に上るといわれ、患者の徘徊による行方不明や事故が相次ぐなど問題化しています。2015年1月の厚生労働省発表によれば、2025年には730万人へ増加、65歳以上の5人に1人が認知症を発症すると推計されました。一部では、予備群である軽度認知障害の人を含めれば1,300万人を超えるともいわれています。深刻化する一方の超高齢化社会の問題に対し、本学は早くから向き合ってきました。

## 仙台市との協定に基づく支援者育成、認知症カフェ

認知症患者を支援する専門職の育成などを目的に2014年12月、仙台市と「認知症対策の推進に関する協



定」を締結。2015年度から「認知症サポーター養成講座」を1年生に必修化、2018年度で所属する学部・学科生全員がサポーター資格を持ちました。

また協定に基づき、地域の集いの場創出として「認知症カフェ」を開設。発祥地のオランダをはじめ先進国で調査研究を行ってきた研究員の監修・助言のもと、学内や関連施設内で年間約50回開催しています。

※認知症サポーターとは、NPO法人「地域ケア政策ネットワーク全国キャラバン・メイト連絡協議会」が実施する「認知症サポーターキャラバン事業」におけるサポーター養成講座を受講・修了した人を称する名称です。サポーターは目印となる「オレンジリング」を渡され、正しい理解のもと、認知症の人や家族を温かく見守る応援者となります。

## 関連法人施設 「認知症介護研究・研修仙台センター」

本学関連社会福祉法人東北福祉会「認知症介護研究・研修センター」は、日本の認知症介護に関する研究・研修の中核的機関で、全国3カ所(東京・愛知県大府・仙台)のセンターの1つとして2001年に設置されました。介護研究活動を展開する学術センター機能と、北海道・東北・四国・中国地方の拠点として認知症介護実務者・指導者研修を担う研修センター機能を有しています。

## 実学臨床教育と認知症ケア准専門士資格

本学では2002年度から、関連福祉施設での実習と講義など大学における学びを有機的に結び付ける、少人数の教育プログラム「実学臨床教育」により即戦力養成を行っています。履修生は2018年度、質の高い介護人材輩出を目的に一般社



「認知症ケア准専門士」資格を得た学生たち

団法人日本認知症ケア学会が新たに認定を開始した「認知症ケア准専門士」試験にチャレンジ。12人が合格し合格率70.6%と、500人を超える受験者となった全国平均の合格率48%を大きく上回りました。

## 関連福祉施設での教育と福祉サービスの提供

学生の実践の場でもある関連福祉施設の介護老人保健施設や老人ホームなどでは、地域の方々に様々なサービスを提供しています。現在全国的に行われている認知症の利用者を対象とした少人数生活空間「ユニットケア」などは、関連福祉施設が先行して実践した事業が参考とされています。

## 附属病院せんだんホスピタル 「認知症疾患医療センター」

附属病院せんだんホスピタルは2016年8月、仙台市の指定を受け認知症疾患医療センター(地域型)を開設。認知症疾患に関する早期診断と入院治療等の対応や相談など、患者と家族が住み慣れた地域で安心して暮らせる支援を目的としています。

# 防災・減災・防犯を啓発する

東日本大震災を教訓に、防災知識だけでなく福祉、介護、医療などの要素を取り入れ「実践を踏まえた」「想定にとらわれない」「一人ひとりが防災リーダー」の意識を持った防災士を養成。救急救命士の養成も2015年度より行っています。また、国見キャンパス近隣在住の外国人住民を対象にした防災訓練の主催や、学生団体が中心となった防災・減災教育活動も活発に行われています。

## 防災士、救急救命士の養成

防災士とは、NPO法人日本防災士機構が認定する資格で、災害時に地域の防災リーダーとして避難誘導や避難所運営補助などにあたります。本学防災士研修室では、学生と市民を対象に防災士養成講座を定期的に開講しています。

また、被災地で救助活動に貢献するなど活躍する救急救命士の、国家試験受験資格を得られる「救急救命士課程」を2015年度より設けています。一部学科を除く学生が履修可能で、医学・医療分野など指定の科目に加え、医療機関実習や救急車同乗実習などさまざまな実習で学びます。



救急救命士課程での実技

## 仙台市との消防協定と学生消防団員

2018年7月、仙台市と「地域消防力の向上等に関する協定」を締結しました。本学は仙台市内の大学で唯一の救急救命士養成校で、仙台市消防局とはこれまでも防災や避難訓練などを通じて、連携を図ってきました。協定の具体的な内容は①本学「救急救命士課程」学生の救急車同乗実習②学生消防団員活動認証制度や応急手当等の普及啓発③消防局が主催する集団救急訓練等への学生の参加など。

このうち在学中に1年以上継続的に仙台市の消防団員として活動を行った大学生が対象となる「学生消防団員活動認証」に関しては、同年11月にステーションキャンパスで研修会を実施、13人の学生が青葉区などの団員として活動を開始し、さらに緊密な連携が図られています。

## TKK3大学連携プロジェクト

震災前の2009年、東北福祉大学、工学院大学（東京）、神戸学院大学（兵庫）の連携プロジェクト「防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開」が、文部科学省の「大学教育のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択されました。3大学の英語頭文字を取った「TKK」連携事業では、防災・減災、ボランティア、国際貢献、環境などに渡る専門的知識と技術を身につけ、地域社会でリーダーシップをとり活動できる「社会貢献活動支援士」の育成をはじめ、その実践に寄与するさまざまな取組を継続しています。東日本大震災においては、3大学の多くの学生が被災地支援を行ってきました。現在も学生交流などを通して、防災意識向上を図っています。



2018年11月に行われた学生消防団員研修会

## 外国人住民を対象とした防災教室・訓練

訓練は、2013年度文部科学省委託事業「学校施設の防災力強化プロジェクト」から派生したもので、仙台観光国際協会と共催しています。5回目となった2018年度の防災教室・訓練には約300人が参加。言語別グループに分かれて心肺蘇生法・AED（自動体外式除細動器）操作法の体験講習や、消火器を用いた消火訓練、倒壊家屋救助訓練、炊き出し訓練、濃煙体験などを行いました。



## 修学旅行受入による 防災・減災教育体験プログラムの実施

2011年の東日本大震災から、年月とともにボランティア活動をする場所は減少してきましたが、修学旅行で被災地を訪れ体験活動や現地交流を希望する高校、小中学校は少なくありません。そのため、みやぎ観光復興支援センターと協力し、防災・減災教育体験プログラムを開始。第1回は2017年1月、福岡県立小倉高校の教員・生徒約70人が本学を訪れ、学生指導による防災・減災プログラムの体験やボランティアの意義について触れました。



## サイバー防犯ボランティア

情報福祉マネジメント学科の2～4年生21人が2018年度、宮城県警察から委嘱を受けサイバー防犯ボランティア活動に初参加しました。サイバー防犯ボランティアは、インターネット上に氾濫する違法・有害情報を発見し警察に通報する活動を行います。



宮城県内では2018年、サイバー防犯ボランティアに一般、大学生57人と2団体が参加。生徒や学生が巻き込まれる性犯罪やトラブルが多発する夏休み、7月から9月いっぱいまでが「強化期間」とされ、不適切投稿等の通報、削除とも過去の実績を大きく上回るものとなりました。この期間中に学生たちが大きく貢献したとして2018年12月、宮城県警察本部から感謝状が贈呈されました。

## 学生注目！

### 東北福祉大学防災士協議会 Team Bousaisi

学生防災士を中心に2013年5月に設立した団体で、翌年3月には大学の防災士団体では初めてNPO法人化しました。地域や学校などと連携し、学生ならではの目線で子どもにも分かりやすい防災教育を行っています。また世界防災フォーラムでの出展等、イベントでの防災啓発も積極的に参加しています。ラジオ番組にも出演し、防災士や防災情報を伝えるなど、市民の防災意識向上に寄与しています。メディア出演等での情報発信の経験は、学生の伝達力向上にもつながっています。



### PASS (Positive Action Students Supporters)

防災・減災について、子どもたちや地域の方々に楽しみながら学べる活動を実施し、地域の防災力向上に貢献しています。学生考案の防災レンジャーは、ヒーローショーを通じて防災・減災について学んでもらう内容で、子どもたちから大変人気のある活動となりました。2017年に世界防災フォーラムと同時開催された「ぼうさいこくたい」にも参加するなど、活躍の場は年々広がりを見せています。2018年はこれまでの取り組みを評価され、仙台若者アワード優秀賞を受賞しました。



### 救命ボランティアサークル FAST

市民ができる一次救命を学び、多くの一般市民の方に教え、普及させることを目的として活動をしています。週1回の定例会で、講師を招いて学習するなど、救命に関する知識や技術を学生同士で共有し合っています。一般の方々から一次救命の講座依頼をいただくこともあります。子どもたちや他大学との交流、外部の講座を通して、自然と伝える力も身に付いていきます。救急救命や応急手当の知識と技術を競う「救護の達人コンテスト」では、2018年まで10連覇を達成しました。



# 寄り添う心を育む

「困っている人を助けたい」「地域の手助けをしたい」と考える学生が多い本学には、さまざまなボランティアサークルがあります。現存する団体で最も古く立ち上げられたのが青葉区BBS会の1947年と、長くボランティア活動に力を入れてきました。1993年には全国の大学に先駆けて、ボランティア活動に対し単位認定するなどカリキュラム化。その2年後の95年1月に起きた阪神・淡路大震災では、学生たちが大きな役割を担いました。2011年3月11日に東北地方に多くの被害をもたらした東日本大震災時、本学は地震発生翌日から「ボランティア会」を発足させ支援活動を開始。学外団体とも協力しながら、今も数多くの学生たちが被災市町村への復興支援を続けています。

義援金募金活動



## 平成30年7月豪雨と支援活動

2018年6月28日から7月8日にかけて、台風接近と梅雨前線の停滞による豪雨で河川の氾濫や土砂災害が起き、広島、岡山を中心に甚大な被害が生じました。その直後から、被災地支援として主に以下の活動を行いました。

### ●義援金募金活動

7月14日、15日、学生ボランティアのべ23人が、仙台市内中心部で街頭募金活動を実施しました。10月19日に学内募金と合わせ575,412円を義援金として日本赤十字社を通じて寄付しました。

### ●硬式野球部員による現地復旧活動

岡山県出身の7人をはじめ、西日本出身の硬式野球部員11人と職員2人が、7月22日から24日にかけて、岡山県小田郡矢掛町、倉敷市真備町で土砂の撤去や被災家屋での廃棄物処理等を行いました。本学卒業生が野球部監督を務めるおかやま山陽高校(岡山県浅口市)に寝袋を持ち込み、同校の一室を拠点としながら、連日38度の猛暑の中で作業を行いました。

### ●日本財団ボランティアの学生参加

日本財団ボランティアセンター Gakuvoによる「大学と連携した被災地支援」に、社会福祉学科、産業福祉マネジメント学科、教育学科の学生5人が参加。8月8日から12日にかけて広島県三原市で被災家屋の泥出し等を行いました。「人手(ボランティア)が不足している」、「ボランティアする側も支援を受けている」などと、被災現場での活動を通し学んだことが参加学生から挙げられました。

硬式野球部員による現地復旧活動



日本財団ボランティアの学生参加



# 大災害に対する主なボランティア活動

1995 1月 阪神大震災  
約3ヵ月、延べ120人が交代で現地滞在



子どもと遊ぶ学生。  
後方は本学の拠点となったプレハブ住宅

1997 1月 日本海重油流出事故  
男女学生10人が重油の塊を除去

1998 8月 那須・福島集中豪雨  
野球部員ら13人が土砂、流木を撤去



豪雨被災地で復旧作業に汗を流す

1999 8・9月 トルコ・台湾大地震  
学生有志が街頭募金

2000 3月 北海道有珠山噴火  
サークル「ちょこボ」22人が街頭募金

2003 7月 宮城県北部地震  
延べ150人が家屋の廃材分別や撤去作業



被災地でテントを設営する学生

2004 11月 新潟県中越地震  
約2ヵ月、150人が家屋の廃材分別や撤去作業

2007 8月 新潟県中越沖地震  
約1ヵ月、第1陣15人、第5陣まで介助、託児、物資の仕分け作業



避難所で高齢者の話し相手を務める学生

2008 5月 中国・四川大震災  
中国からの留学生を中心に学内募金活動

6月 岩手・宮城内陸地震  
日帰りで8日間、延べ84人参加。足湯での心のケア



2011 2月 大雪被害  
秋田県仙北市角館町で学生・職員が高齢者宅で雪かき



3月 東日本大震災

2013 12月 フィリピン台風災害  
学生有志による募金活動を実施  
学内及び街頭にて呼びかけを行い、約20万円募金

2014 7月 山形県南陽市台風8号土砂災害  
学生・職員による瓦礫・土砂の撤去、消毒作業

9月 広島市土砂災害  
学生有志が募金活動

2015 5月 ネパール大地震  
学生有志による募金活動を実施  
学内及び街頭にて呼びかけを行い、約33万円募金

9月 東日本豪雨水害  
宮城県栗原市で学生・職員による瓦礫・土砂の撤去



2016 4月 平成28年熊本地震  
災害支援車両の提供と支援物資搬送  
学生ボランティアの街頭募金などで約130万円寄付  
被災大学への遠隔情報保障支援

11月 台風10号水害  
岩手県岩泉町にてレオクラブによる  
被災家屋の泥かき、家具運び出し



2018 7月 平成30年7月豪雨  
※9ページ参照

2019 東日本大震災ボランティア活動継続中  
※11、12ページ参照

# 東日本大震災と 本学のボランティア活動

2011年3月11日～2019年3月現在



**① 釜石市**

診療所再開支援

- 期間 2011年4月27日～30日
- 場所 釜石市内

**② 陸前高田市**

避難所支援

- 期間 2011年5月2日～5日
- 場所 陸前高田市内
- 内容 救援物資仕分け作業



**⑤ 登米市**

高齢福祉仮設住宅支援

- 期間 2012年5月19日～2014年10月
- 場所 登米市南方町
- 内容 話し相手など高齢・障がい被災者支援

子ども支援

- 期間 2017年8月2日、8日
- 場所 登米市内公民館3カ所
- 内容 防災教育

**⑥ 女川町**

医療、看護、リハビリ、介護支援

- 期間 2011年3月29日～4月22日
- 場所 牡鹿半島(女川町・石巻市鮎川地区)、網地島
- 内容 救援物資提供、避難高齢者の外傷手当、血圧測定・運動指導・徒手療法、助産婦教員による妊婦健診、児童・生徒の学習支援など

物資支援

- 期間 2011年5月4日
- 場所 女川第一小学校

被災者支援

- 期間 2011年7月6日
- 場所 女川町 女川総合体育館
- 内容 ジャパンゴルフツアー選手会ボランティア支援補助

農業支援

- 期間 2012年2月10日～2014年3月31日
- 場所 女川町新田
- 内容 「女川町復興ふれあい農園」づくりほか

自立支援

- 期間 2012年3月1日、19日
- 内容 女川町清水・総合運動公園地区 仮設住宅で「孫の手」製作技術提供



**⑨ 松島町**

避難所支援

- 期間 2011年4月10日
- 場所 避難所(松島温水プール美遊)
- 内容 炊き出しなど



**⑬ 亘理町**

介護支援

- 期間 2011年4月22日
- 場所 亘理町内
- 内容 障がい者の介護及び入浴介助



**③ 気仙沼市**

医療支援

- 期間 2011年3月15日～27日
- 場所 気仙沼市避難所

避難所生活者支援

- 期間 2011年4月16日～9月11日
- 場所 気仙沼市松岩公民館

グループホーム復旧支援

- 期間 2011年4月20日
- 場所 気仙沼市内のグループホーム

小学校支援

- 期間 2011年8月1日～10月9日
- 場所 気仙沼小学校
- 内容 運動補助(プール、運動会など)

**⑧ 東松島市**

グループホーム復旧支援

- 期間 2011年4月22日
- 場所 東松島市内のグループホーム

復興応援コンサート

- 期間 2013年～ **継続中**
- 場所 東松島市内の仮設住宅及び災害公営住宅
- 内容 上野学園大学と心のケアコンサート実施

被災者支援

- 期間 2018年9月2日
- 場所 東松島市「あおい地区」
- 内容 清掃活動、住民交流会

**⑬ 山元町**

被災・支援調査

- 期間 2011年6月14日、16日、17日
- 場所 山元町内
- 内容 ボランティアニーズ調査、放射線量調査

被災者支援

- 期間 2011年6月27日～7月29日
- 場所 山元町ふるさと伝承館
- 内容 「思い出写真」の洗浄、展示

---

- 期間 2016年9月1日
- 場所 山元町「つばめの杜」
- 内容 清掃活動、住民交流会



福島第一原子力発電所



<b>④ 南三陸町</b>
<b>医療支援</b>
○期間 2011年3月15日～27日 ○場所 南三陸町避難所
<b>施設支援</b>
○期間 2011年3月29日 ○場所 南三陸町 登米市 ○内容 南三陸町小中学校引っ越し手伝い
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年4月10日～8月6日 ○場所 志津川町内 ○内容 支援ニーズ調査、支援物資提供、 遺留品整理・公開所開設補助、 被災家屋支援（泥かき、家財道具運搬など）
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 南三陸町避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>被災者支援</b>
○期間 2011年5月28日～6月4日 ○場所 南三陸町入谷（旧入谷小学校） ○内容 「思い出写真」展示会場の受付、誘導ほか
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年7月15日～8月6日 ○場所 南三陸町ホテル観洋避難所 ○内容 運営補助、配膳、託児所支援
<b>いきがづくり支援</b>
○期間 2011年8月8日～12月23日 ○場所 南三陸町入谷（旧入谷小学校） ○内容 復興多幸（タク）文鎮づくり
<b>地域復興センター設置</b>
○期間 2011年9月13日～2012年3月末 ○場所 南三陸町入谷 ○内容 復興タク作成、サロン運営、災害調査研究
<b>地域振興支援</b>
○期間 2012年2月11日～3月31日 ○場所 旧合同庁舎跡地 ○支援内容 復興コンテナ名店街オープンセレモニー補助、 販売、食器洗い、商品仕分け、事務 ○他大学受入（駒沢女子大学）
<b>高齢者福祉仮設住宅支援</b>
○期間 2012年6月17日～2016年3月 ○場所 南三陸町入谷 ○内容 話し相手など高齢・障がい被災者支援
<b>子ども支援</b>
○期間 2016年8月～10月 ○場所 南三陸町ポータルセンター ○内容 防災教育
<b>被災地支援</b>
○期間 2016年8月～ <b>継続中</b> ○場所 南三陸町歌津田の浦漁港 ○内容 「海の運動会」運営ボランティア

<b>⑩ 利府町</b>
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年4月11日 ○場所 利府町災害ボランティアセンター ○内容 センター機能強化

 2011年3月11日の本震震源

 本震後約20分の  
東北地方沿岸での主な余震震源

<b>⑦ 石巻市</b>
<b>医療支援</b>
○期間 2011年3月15日～27日 ○場所 石巻市避難所
<b>被災調査</b>
○期間 2011年3月18日 ○場所 仙台市青葉区～石巻市鮎川 ○内容 ヒッチハイク方式での被災状況、支援ニーズ把握など
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年3月29日～4月22日 ○場所 石巻市内 ○内容 物資提供・仕分け、仙台間ボランティアバス送迎、 ボランティアコーディネート、被災家屋支援など
<b>医療、看護、リハビリ、介護支援</b>
○期間 2011年3月29日～4月22日 ○場所 牡鹿半島（女川町・石巻市鮎川地区）、網地島
<b>避難所運営補助</b>
○期間 2011年4月12日～20日 ○場所 石巻市飯野川避難所
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 石巻市避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>医療看護班活動記録入力補助</b>
○期間 2011年4月23日～5月8日 ○場所 石巻赤十字病院
<b>介護支援</b>
○期間 2011年4月22日 ○場所 石巻市内 ○内容 障がい者の介護及び入浴介助
<b>被災者支援</b>
○期間 2011年6月18日 ○場所 石巻市雄勝地区 ○内容 卒喪忌（百箇日法要）の参列、炊き出し
<b>健康支援</b>
○期間 2011年11月5日～6日、26日 ○場所 網地浜公民館
<b>高齢者いきがづくり支援</b>
○期間 2011年12月14日～16日 ○場所 鮎川町、網地島 ○内容 「孫の手」完成品贈呈
<b>復興応援コンサート</b>
○期間 2013年～2015年 ○場所 石巻市内の仮設住宅及び災害公営住宅 ○内容 上野学園大学と心のケアコンサート実施
<b>島おこし支援活動</b>
○期間 2016年12月20日～ <b>継続中</b> ○場所 網地島 ○内容 公園整備、オリーブの木への支柱設置など

<b>⑫ 多賀城市</b>
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 多賀城市避難所 ○内容 避難所への牛乳配達
<b>健康支援</b>
○期間 2011年4月30日 ○場所 多賀城市避難所 ○内容 避難所での楽器演奏、体操指導など

<b>⑬ 富谷町（現・富谷市）</b>
<b>医薬品仕分け補助</b>
○期間 2011年3月26日～4月9日 ○場所 東北自治総合研修センター ○内容 医薬品の荷降ろし、仕分け

<b>⑪ 七ヶ浜町</b>
<b>避難所支援</b>
○期間 2011年4月16日、18日、8月8日 ○場所 七ヶ浜町避難所 ○内容 避難所への牛乳配達 =====
○期間 2011年4月30日 ○場所 七ヶ浜町避難所 ○内容 避難所での楽器演奏、体操指導など
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年6月3日～10月28日 ○場所 七ヶ浜町生涯学習センター ○内容 運営補助

<b>⑭ 仙台市</b>
<b>地域支援</b>
○期間 2011年3月12日～17日 ○場所 国見小学校 ○内容 児童の遊び相手、昼・夕食の炊き出しと配給、 避難所内の清掃・パトロールなど
<b>災害ボランティアセンター支援</b>
○期間 2011年3月17日～4月30日 ○場所 仙台市災害ボランティアセンター ○内容 スタッフとして活動
<b>施設、子ども支援</b>
○期間 2011年4月10日 ○場所 岩切児童館 ○内容 絵本、遊具などの片付け、整理
<b>農業支援</b>
○期間 2013年～ <b>継続中</b> ○場所 若林区荒浜地区 ○内容 TTK 三大学連携による被災農家支援
<b>被災地復興支援</b>
○期間 2017年4月22日 ○場所 若林区荒浜地区 ○内容 「四季の森」植樹会で広葉樹など植樹
<b>被災者支援</b>
○期間 2017年5月27日 ○場所 青葉区霊屋下災害公営住宅 ○内容 アカペラサークル「MUSICOM」による 交流イベント「ふれあい喫茶」

<b>⑮ 名取市</b>
<b>避難所、子ども支援</b>
○期間 2011年4月7日～6月30日 ○場所 名取市内避難所7カ所 ○内容 仮設住宅引越支援、児童・生徒学習支援他
<b>医療、看護、リハビリ、介護支援</b>
○期間 2011年4月15日～2017年3月末 ○場所 名取市内の仮設住宅及び災害公営住宅
<b>子ども支援</b>
○期間 2011年8月31日～2015年3月31日 ○場所 名取市美田園仮設住宅 ○内容 学習支援、遊び・相談相手
<b>被災者支援</b>
○期間 2012年～ <b>継続中</b> ○場所 関上小学校、名取市役所 ○内容 「キャンドルナイトin 関上」の参加、補助など
<b>復興応援コンサート</b>
○期間 2013年～ <b>継続中</b> ○場所 名取市内の仮設住宅及び災害公営住宅
<b>ナタネによる東北復興プロジェクト</b>
○期間 2014年～ <b>継続中</b> ○内容 菜の花植栽による養蜂とナタネ油製造など

# 主な学生ボランティアサークルと活動内容

## 地域共創系サークル

- ミニモリサポーターズ ※2ページ参照
- まごのてくらぶ ※5ページ参照
- レオクラブ ※5、10ページ参照
- 地域安心安全ボランティアTeam Zero ※5ページ参照
- 環境サークル-EVOL-  
木の苗を育て植樹祭への出荷など、地球環境やエコに関する活動を行っている。

## 防災減災系サークル

- Team Bousaisi
- PASS (Positive Action Students Supporters)
- 救命ボランティアサークル FAST ※8ページ参照



## 学習支援系サークル

- 社会教育研究会こっぺぱん  
児童館や小学校の行事等への協力を通じ、教育の現状の理解を深め、豊かな人間形成を図ることを目的とし活動する。
- 匠民-TAKUMIN-  
ものづくりを通して子どもたちの豊かな感性を育み、将来の夢や今後の目標につながるような支援を行う。
- ソーシャルスキルトレーニングの会ひまわり  
発達障害のある小学生から高校生までの発達段階に応じて獲得すべきスキルを習得させることを目的とし活動している。

## その他の社会貢献系サークル

- 青葉区 BBS 会  
非行や不登校に陥った青少年を対象として活動を行い、非行防止・更生の手助けを目的としている。
- ふたばクルーズ  
仙台市内の児童館を訪問し、子どもたちの健全育成へのサポート活動を行う。
- ボランティアサークル天使村  
乳児から小学生までの子どもたちを対象とした施設を中心にボランティア活動を行っている。
- ハンディスポーツアドバンスチーム  
障害者スポーツ大会などの運営ボランティアや、障害者スポーツの普及活動を行う。
- 学生サークル「ジャグリコ」  
ジャグリングを通じ地域と交流。子どもへの体験教室等で、意欲の触発や自己表現の一助となる。
- ふぁみりあ  
親子のかかわりに焦点を当てたイベントを通じ、皆で支え合えることができる地域社会を目指す。
- あおいやね  
知的障害の理解を深めることを目的とし、施設の利用者さんとふれあい、効果的な玩具等を考え、創作する。
- おいまわしセツルメント  
子どもたちとの遊びや行事の企画を通じ、地域の交流の場を設けることを目的としている。
- 仙台天使園ちっちゃな手  
児童養護施設の子どものための遊びを通じ、社会性を身に付ける手助けをすることを目的に活動する。
- アカベラサークル MUSICOM  
サークル内の「ボランペラ」では仮設住宅等でアカベラを披露、歌を通じ地域との交流を深める。
- 老いを見つめる会こまくさ  
特別養護老人ホーム訪問を通じて、高齢者福祉の理解を深めることを目的とし活動する。
- 学内手話普及サークル Smile  
聴覚障害者との交流を通じ、ろうの理解、手話の普及や知識を深めることを目的とし活動する。
- 宮城こもれ陽ボランティアサークル  
入院中の筋ジストロフィーの患者さんを訪問し、ニーズに応えるボランティア活動を行う。
- そらクレフレンズクラブ  
親子パフォーマンスグループ「そらとぶクレヨン」の公演活動を支援し、創造型ボランティアを行う。
- 小さな人形劇の会ペペ  
人形劇を通して外部施設で障害のある方、小さな子どもたちと笑顔で楽しく接している。
- BEAUTY' S  
施設やお祭り等でハンドマッサージやほっとケア、ネイルを行う。依頼があれば、その都度対応。
- ストリートチルドレン芸術祭  
世界の子どもたちが安心して暮らせる環境づくりのための支援。主に、カレンダーの作成・販売等。
- チームせんだいハウス  
入院・通院している子どもたちとその家族を支援する「せんだいハウス」の広報・募金活動を行う。
- 知的障害サークルそら  
知的障害者施設を訪問し、利用者を楽しんでもらえるような季節の行事を企画運営している。
- 高齢社会のスポーツを考える会  
ゲートボールを中心に練習や大会への出場などを通じ、地域の高齢者の方々と交流を深める。



# 人と時代に向き合う

学生たちが主体となり、子どもの学習支援等を行う活動が活発に行われています。大学では、子育てや発達支援などを行う支援室や研究室、相談室を複数設置し、地域・一般の方たちに開放、様々な悩みの解決をサポート。また、校地内にエネルギー施設や発電施設を設けるなど、時代と向き合った取り組みを行っています。

## 被災地の子ども支援活動

女性ロックバンド「プリンセス プリンセス」からの被災地復興支援寄付金をもとに2014年から2017年3月まで行われた「子ども支援プロジェクト」を継承。活動の1つである日帰り自然体験プログラム「島であそべんちゃー IN野々島」は、「塩竈市学力向上プラン（第4次：2017～19年度）」での「活躍と交流」と連携した取り組みとなりました。自然豊かな島で小学生と学生がともに行動し、たくましく生き抜く力を磨くこと、また双方で学び合うことを主目的としています。

## 教育学科「TFU 子ども塾」

2018年8月、夏休みを利用して教育学科初等教育専攻2、3年生のべ97人が、小学生を対象とした計7日間の教育プログラムを実施しました。参加児童はのべ107人で、英語やプログラミング、新聞を用いての言葉の学び、朴木山キャンパスでのデイキャンプ、短剣道教室と多岐にわたる内容。学生たちの優しく丁寧な指導も好評で、多くの参加者、保護者の方から「また参加したい」との声をいただきました。このほかに教育学科では、ゼミ単位でも学習支援活動を行っています。

### 各種支援・相談室

#### 次世代育成支援室

将来を担う子どもの健全な育成のため、乳幼児から学童期を中心とした子育て・子育て支援、発達支援に関わる事業を行っています。

#### 生涯学習支援室

教育・研究の成果を開放し、生涯学習に対する要請や、職業人の再教育などの社会の期待に応えることを目的としています。

#### 特別支援教育研究室

発達障害のある子どもが、持てる力を最大限に発揮しながら生活し学習できることをめざし、保護者の方を対象にした支援を実施しています。

#### 予防福祉健康増進推進室

本学の推進する予防福祉の普及と啓発のため、本学の研究成果の事業化及び研究へのフィードバックを行っています。

#### 臨床心理相談室

子育ての悩みのほか、家庭や職場など社会での対人関係など様々な問題に対し、臨床心理士が援助しています。

#### 地域福祉研究室

研究成果を活かし、災害時に避難所等で福祉支援活動する福祉チーム員を養成する「災害派遣福祉チーム養成基礎研修」を行っています。

### エネルギー施設

#### エネルギーセンター

ガスエンジン発電装置 350kw×2基、リン酸型燃料電池 100kw、太陽光発電装置 50kw と総量 850Kw の発電を行い、国見ヶ丘第1キャンパスから本学及び関連施設に電力を供給します。また設備から出る排熱を回収、関連施設の給湯及び冷暖房に利用しています。東日本大震災時も電気、熱を各施設へ供給し、設備の信頼性と安全性に内外研究者より大きな評価を頂きました。



#### メガソーラー発電

福島第一原発事故後、国内の原発停止により電力供給が逼迫したことを踏まえ、発電事業者に土地提供の形でメガソーラー発電事業を開始、再生可能エネルギーの利用推進に貢献しています。大倉校地では2013年9月、茂庭校地では2016年11月から売電を開始しています。





## 東北福祉大学と社会貢献

東北福祉大学は、『行学一如(ぎょうがくいちによ)』を建学の精神に掲げ、教育の理念は『自利・利他円満』の哲学を基調としています。この精神と理念のもと、長年にわたり人間力、社会力を持つ人材を世に送り出してきました。

「福祉の対象は人間である」との認識から、他人との関わりを大切に、協力し合う気質を養うことにも力を注いでいます。その方策の大きな柱として教科外活

動、すなわち文化活動をはじめスポーツやボランティア活動等の振興に、全学を挙げて取り組んできました。

近年は「開かれた大学」「地域社会に密着し、共に歩む大学」との理想を実現するため、子育て支援や高齢者の認知症対策、防災・減災活動、地域共創活動など、多様化・複雑化する社会問題の解決に向けた取り組みに力を入れています。

### 表紙写真の説明

国見キャンパス音楽堂ハーモニースクエア内に2016年8月31日、推定樹齢400年超のスペイン・アンダルシア産オリーブ(品種:ゴルダール)が植樹されました。オリーブは「旧約聖書」ノアの箱舟のくだりから、白い鳩とともに平和の象徴といわれています。表紙は2018年夏のもので、高さ3.5メートル、幹周り2.6メートル、重さ2.05トンだった植樹当時(写真右)と比べ、随分と枝葉を茂らせ成長したことが分かります。

産地のスペインと本学のある仙台

は、400年前につながりを持ちました。伊達政宗公の命により、支倉常長ら慶長遣欧使節団が1613年10月28日(慶長18年9月15日)、現在の石巻市にある月浦を出航。翌年10月、スペイン南部アンダルシア地方のコリア・デル・リオに上陸し、その後スペイン国王に謁見しています。

常長が訪れた頃、彼の地に誕生していたと思われるオリーブの植樹は、400年の時の流れと歴史、先人の功績に思いを馳せてほしい、との願いが込められています。



「あたりまえ」を、超えていく。



【総務部広報課】

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1丁目8番1号

TEL:022-717-3345 FAX:022-233-3113

<https://www.tfu.ac.jp>

